

資料論文

音楽表現領域指導法の学びを活用できる学生の割合を

高めるための方策の検討

—授業改善にむけた振り返り課題の活用の有効性—

Consideration of Initiatives to Increase the Percentage of Students who can utilize the Learning of Music Expression Area Teaching Methods : Effectiveness of Using Review Assignments for Class Improvement

越智光輝 国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

授業改善にむけたこれまでの取り組みにおいて、学生の持つ先天的な資質の向上や新たな知識や能力の修得の程度に加え、それらを実際に活用できるようになることの重要性について述べられている（藤本 2023）。一方、授業の内容を活用していると考えられる学習者は全体の30%程度とする報告がある（舛田・工藤 2023）。

本研究では、音楽表現領域指導法の授業内で学んだ知識やスキルについて、保育者として保育の現場で、将来、どのように活用するか考えることのできる学生を「授業内容を活用している学生」と定義し、「授業内容を活用している学生」の割合を高めるための授業改善にむけた方策を検討することを目的に、授業終了時の約10分間で実施している振り返り課題の活用の有効性について検証を行った。

振り返り課題における「A. 学びを活用する対象」「B. 対象に対しての行動」「C. 行動によって得られると予想される結果（成果）」、これら3つの視点からの記入内容に応じた指導を行うことで「授業内容を活用している学生」の割合が高められることから、授業改善にむけた振り返り課題の活用の有効性が示された。

キーワード: 授業改善、音楽表現領域指導法、領域「表現」、振り返り課題

1. はじめに

保育者養成校である国際学院埼玉短期大学（以後、本学）において、筆者の担当する科目である音楽表現領域指導法は、幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を取得するために履修が必要な専門科目の1つである（図1）。

堀（2009）、藤井（2019）、清水（2022）、林田（2023）等、先行研究において授業改善への様々な取り組みが行われている。筆者も、本学の開講されている多くの科目における授業公開週間や専任教員を中心としたFDを通じた授業改善に取り組んできた。それらは、幼稚園での実習における音楽表現活動を実践する際の学生の不安軽減を目的とした授業で取り扱う課題曲の検討（越智 2017）や、授業での学びのポイントを見過ごしている学生数の減少を目的とした授業改善にむけた方策の検討（越智 2023）といった、「授業内」に焦点をあてた取

り組みであった。一方、「授業後」に焦点をあてた授業改善の先行研究において、藤本（2023）は、学生の持つ先天的な資質の向上や新たな知識や能力の修得の程度に加え、それらを実際に活用できるようになることの重要性について述べているものの、舛田・工藤（2023）は、授業の内容を活用していると考えられる学習者は全体の30%程度である、と結論付けている。

本研究では、音楽表現領域指導法の授業内で学んだ知識やスキルについて、保育者として保育の現場で、将来、どのように活用するか考えることができる学生を「授業内容を活用している学生」と定義し、「授業内容を活用している学生」の割合を高めるための授業改善にむけた方策を検討することを目的に、授業終了時の約10分間で実施している振り返り課題の活用の有効性について検証を行った。

《専門科目》					
科目名	音楽表現領域指導法				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

子どもの発達を意識した音楽活動について、フィールドワーク、グループワーク、個人およびグループによる発表を通じて学ぶ。学んだ音楽活動にもとづいて、模擬保育を実践する。

《テキスト》

渡邊雄介（監修）芳野道子・越智光輝（編著）他
 保育内容「音楽表現」 声から音楽へ 響きあう心と身体
 福村出版株式会社

《参考図書》

必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

子どもの自由な音楽表現を受容できる保育者となるために、子どもの発達に応じた表現の領域におけるねらい等について説明できる。
 楽器や身近な素材を用いて自由な音楽表現が実践できる。
 音楽表現活動における子どもの発達に応じた導入方法を実践できる。

《授業時間外学習》

提示された課題への取り組み
 発表に向けた自己学習
 模擬授業に必要な備品の準備
 （本授業では15時間の時間外学習が必要です。）

《成績評価の方法》

個人発表(10%)、グループ発表(50%)、課題提出(40%)で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出された課題、個人やグループによる発表に対して、フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	音を聴くことによる受容と表出	表現の領域における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」に関するグループワーク 【時間外学習】日常生活で耳にする音についての調査（復習1時間）
2	いろいろな「音」の収集	身近で耳にする様々な音の収集と発表用資料の作成 【時間外学習】収集したデータの選別、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
3	収集した「音」についての発表	収集した「音」について、作成した資料を用いた発表 【時間外学習】発表にむけての準備（予習・復習1時間）
4	語外国の音楽教育	エミール・ジャック=ダルクローズ、コダーイ・ゾルターンの音楽教育について 【時間外学習】リトミックについて調べておく（予習・復習1時間）
5	保育者としての歌唱	呼吸器官、発声器官、共鳴器官について学び、発声練習を実践 【時間外学習】呼吸器官を意識した呼吸法の実践（予習・復習1時間）
6	楽器との出会い	子どもがふれる楽器と楽器の特長に関するグループワーク 【時間外学習】学んだ分類方法を用いた楽器の分類（予習・復習1時間）
7	楽譜からの情報による印象の変化	「音楽の3要素」（メロディー、リズム、ハーモニー）が与える様々な印象 【時間外学習】提出した課題への取り組み（予習・復習1時間）
8	楽器を用いた自由な表現	楽器を用いた独奏曲の楽譜を個人で作成 【時間外学習】楽譜作成、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
9	作曲した独奏曲の発表（前半）	出席番号前半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 【時間外学習】発表の振り返り、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
10	作曲した独奏曲の発表（後半）	出席番号後半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 【時間外学習】発表の振り返り（予習・復習1時間）
11	素材をいかした音作り	オリジナルの合奏曲（紙を用いて音を出す）の楽譜をグループで作成 【時間外学習】楽譜作成、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
12	作成した合奏曲の発表	作曲したオリジナルの合奏曲をグループで発表 【時間外学習】発表の振り返り（予習・復習1時間）
13	音楽活動の計画	模擬保育（音楽活動）の計画と指導案作成 【時間外学習】指導案作成と模擬保育で使用する教材等の準備（予習・復習1時間）
14	音楽活動の実践	模擬保育の実践（1～3班の発表）と講評【時間外学習】模擬保育で使用する教材等の準備、実践した模擬保育の振り返り（予習・復習1時間）
15	音楽活動の実践に関するまとめ	模擬保育の実践（4～6班の発表）と講評 【時間外学習】実践した模擬保育の振り返り（復習1時間）

図1 音楽表現領域指導法シラバス

2. 方法

2-1 調査対象

令和5年度に本学幼児保育学科で2年前期に開講された音楽表現領域指導法を履修した学生95名(2年生94、科目等履修生1)を対象とした。

2-2 調査方法

音楽表現領域指導法の授業で実施している振り返り課題の項目は、「①印象に残った学び」「②学びを通じて感じたこと」「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」「④質問」の4点である(図2の<詳細>参照)。受講した回の授業内容の整理を行うことで自らの学びを深めることを目的に振り返り課題を課しており、授業終了時の約10分間で学生は振り返り課題の記入に取り組んでいる。振り返り課題の提出は学生ポータルサイトの学習ポートフォリオ上で行われ、その締め切りは授業実施日の23:59と定めている。また、振り返り課題の評価は、その記入内容に応じて2点(学んだ内容に加え学びにもとづいた自らの考えが記入されている)、1.5点(学んだ内容が概ね記入されている)、1点(学んだ内容について部分的に記入されている)、0.5点(遅れて提出)、0点(未提出)としている。

■学習ポートフォリオ (閲覧中)	
履修科目*	音楽表現領域指導法(幼2C)
公開開始*	2023/04/07 10:00 <input checked="" type="checkbox"/> 時間を指定する(hh:mm)
提出期限*	2023/04/07 (YYYY/MM/DD)
課題名*	最大50文字 第1週・振り返り
詳細	20行以内で1000文字以内 第1週の授業について、下記①~④を入力してください。④については、特になければ、「特になし」と記入してください。 ①印象に残った学び ②学びを通じて感じたこと ③今回の学びを、将来、どのように活用するか ④質問
レポートの種類*	レポート保存型
評価回数(目標自己設定型用)	0回 (注:履修生が評価内容を設定後は回数の変更はできません。)
発行者名	越智 光輝
添付ファイル	

図2 振り返り課題(学習ポートフォリオ上)

本研究においては、令和5年度前期開講の音楽表現領域指導法の1週目の授業後に入力され

た振り返り課題の項目「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容から、振り返り課題の活用の有効性について検証を行った。項目③は、幼稚園教諭や保育士等(保育者)として保育の現場での活用を想定したものであり、授業内で学んだ知識やスキル(以後、「授業内容」)を将来、保育者としてどのように活用するか、学生が考えることができる機会を確保することを目的に設けたものである。

担当授業の第1週のテーマは「音を聴くことによる受容と表出」、学習内容は「表現の領域における『ねらい』『内容』『内容の取扱い』に関するグループワーク」である(図1参照)。

第1週の授業の進め方は、まず初めに、領域「表現」の「ねらい」「内容」「内容の取扱い」における、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領それぞれにおける3歳以上と3歳未満での違いについて、「音楽と触れ合う体験を通じて、嬉しい、楽しい、悲しいといったさまざまな感動を得ること」(受容・インプット)と「音楽を通じて得た嬉しい、楽しい、悲しいといったさまざまな感動を、仲間や友人と共有することや実際に楽器を用いて演奏して表現してみること」(表出・アウトプット)の観点から学んだ。

次に、図3に示した課題1⁽¹⁾に取り組んだ。なお、課題1に記載されている「表4-3-2」⁽²⁾を図4に示した。

その後、先に記した「受容・インプット」と「表出・アウトプット」における個人差を実際に感じることを目的に、「たなばたさま」のメロディーに「ファラド→シトレファ→ドミソ→ファラド」と伴奏づけを行った演奏と「ファラドミ→シトレファラ→ドミソシト→ファラドミ」⁽³⁾と伴奏づけを行った演奏を実際に聴いた際の印象が、自分と他者とでどのように違いがみられるか明らかにする実験を実施した。実験後に次の授業に向けての説明を行い、最後に振り返り課題を記入する時間とした。

課題1

表4-3-2に記載されている、「教育要領、保育指針(3歳以上)、教育・保育要領(3歳以上)」の内容(1)～(8)、「保育指針(1歳以上3歳未満)、教育・保育要領(満1歳以上満3歳未満)」の内容(1)～(6)について、①受容(インプット)、②表出(アウトプット)、③受容と表出の両方、①～③のどれに関連した内容なのか、その理由もふくめて自分1人で考えてみましょう。

次に、複数名で1つのグループになって、1人ひとりの意見を発表し、まわりのメンバーの意見・考えを共有してみましょう。

図3 課題1

表 4-3-2 それぞれの「2 内容」

教育要領、保育指針（3歳以上）、教育・保育要領（3歳以上）
(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。 (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。 (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。
保育指針（1歳以上3歳未満）、教育・保育要領（満1歳以上満3歳未満）
(1) 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。 (2) 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。 (3) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。 (4) 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。 (5) <u>保育士</u> （教育・保育要領：保育教諭）等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。 (6) 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。

図 4 課題 1 の表 4-3-2

3. 結果

3-1 記入学生数

担当授業の履修登録を行った 95 名のうち、振り返り課題への記入と提出を行った学生は 90 名であった。

3-2 記入内容

振り返り課題における「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」への学生の記入内容について表 1 に示した。なお、表内の左側の数値 (No.) については、記入学生数の確認を行うための値であり、学籍番号等を表示したものではない。また、No.89 の記入内容については、個人名が記載されていた個所を筆者により「※○○さん」と修正を行った。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容

1	子どもたちにたくさんの音楽のリズムを知ってもらい、一緒に楽しみながら身につけ、活動できたらなと思います。
2	自分の価値観を相手に押し付けてはいけないと思った。相手の考えを聞いて、「こういう考え方もあるんだな～」と思えるようになりたいと思いました。
3	皆同じことを感じるのが正解なのではなく、一人一人感じ方が違っていいんだというところで、自分の意見を大切にしていきたいと思います。また、自分と違う意見の人と話をすることで自分が気づかなかった部分に気づくことが出来るので、このような共有する機会を設けるようにしていきたいです。
4	それぞれ捉え方は違うがそれを否定せず、それぞれの意見、考え方、捉え方を尊重したり、そう感じるのか！と発見に繋げることができ、自分の考え方なども変わると思う。そのため、他の人との意見交換が大切だと思ったので、将来、たくさんの場面で意見交換などをしたいと思いました。
5	音楽だけに限らず、自分の感じたことを周りにも共有して一緒に楽しむことを学んでもらい、様々な感性を養ってもらえるように共有する楽しさを教えたいです。
6	今回の学びで、たくさんの意見考え方があることが分かったので他人の意見も参考にしつつ、自分だけの意見、私は絶対これと思っててもまずは他の人の意見を聞き違う捉え方も考えたいなと思いました。様々な意見を聞くことで色々な視点で見れるなと感じました。
7	一人一人感じ方が違うから、自分の意見だけで決めつけずたくさんの感じ方を考えられるように、感じ方を豊かにしていきたい。
8	私たちのグループは今回5人でした。この5人の中でも違う考え方をするとすることは、将来職場に出た時も職場の方や保護者の方と考えが食い違う部分が必ずあると思います。いくら気が合っても、自分と全く同じ考えの人は居ないということを頭に入れて生活したいと思いました。
9	感じ方は人によって違うということを今回の授業で学びました。音楽には正解はなく、自分を表現するものではないかなと感じました。これらは将来就職先でも活用できるのではないかと考えています。音楽関係に限らず自分の意見を発表したり、他人の意見も取り入れたりし、立派な保育者になりたいと思いました。
10	保育者になり、音楽を通して子供たちと保育をする時にインプットとアウトプットを理解して行うことで、スムーズに学ぶことができると思ったので、教育要領、保育指針を見てどの内容がインプットとアウトプットなのかを考え子供たちの個性にあった保育をしていきたいと思いました。
11	今回の学びを将来私は現場で働く時に受容と表出を意識して子供たちに音について教えていければいいなと思います。ただ歌うことが音への勉強ではないと言うことを一緒に勉強していければと思います。
12	人と考えを共有して人の意見に合わせるという力が活用されたいと思いました。
13	将来活動を決める際に、自分がこの活動を通して子どもたちのどんな所を伸ばしていきたいのかなどを考えながら決めると思うのでその時に今日学んだことを活用していきたいと思いました。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容（つづき）

14	保育時にはダンスや演奏ができない子どもがいても聞いたり動くことを楽しめるよう配慮する
15	様々なところで人によって感じ方や捉え方の差があるということを頭に入れて、子どもだけでなく保護者や保育者と関わるときにも自分の考えにとらわれないように活かしたい。
16	自然の中から音を聞きとって子どもたちと耳をすませたり自然を感じながら音を楽しめたらいいなと思った。
17	受容(インプット)、表出(アウトプット)を考えた上で子どもたちの活動や制作などに活用していきたいと思いました。
18	違いを知りそれぞれが楽しく音楽に触れられるようにしたいと思います。
19	インプットしてるからこそアウトプットできるという意見にとても共感しました。乳児期にたくさんものに触れたり音を聞くことで、イメージが広がり自分が思っていることを周りに表現出来ると思いい、触れる機会をたくさん作りたいです。最初のインプットを大切にしたいと思います。
20	保育者になったときに、違う感じ方をしている子供たちがいるかもしれないので、否定するのではなく、そういった感じ方もあるよねと共感し、また、そういった感じ方もあるのかという自分の学びにも繋げていきたいと思います。またこういった音楽活動を行う時は意見交換など子供たちにもどう感じたか聞いてみたりするのもいいなと思いました。
21	今回の学びを通して、保育者になった時大人と同じように子どもにもそれぞれの育った環境などによって、受容・表出が違うと思うので、自分の価値観だけに捕らわれないように、常に受け入れる体制を取っていききたいと思います。
22	将来保育園で自分が汚いと思う音を出す子がいた時にこの音が好きなのか？など共感してあげると言うことができたり、ちょっとした音（自然で感じる音）を私が気付いて子供たちにこんな音するね～と共有することができると思います。
23	自分とはまた違った子どもたちの感じ方があると思うので、その子どもたちの感じ方を大切にしていきたいと思いました。
24	人によって受容、アウトプットの仕方が違うため自分の価値観を子どもに押し付けたりせず自由に表現したり友達と触れ合う機会を多く持たせてあげたいなと思いました。
25	人によって考え方はさまざまなので決めつけず、いろんな考えを受け止める。子どもたちの一人ひとりの感じ方を大切にする。保育者として子どもがいろんな音楽に触れることができる環境を作る。
26	今回の学びは将来保育士になった時、子どもたちと関わる際に子どもたちも一人ひとり違う意見や考え方を持っているからこそ子ども一人ひとりしっかり向き合い対応していきたいです。また、些細な子どもの発言や気づきにも沢山の学びや気づきがあると思うので気づいてあげられるようになりたいです。
27	いつか保育者になった時に、子どもたちに音楽が楽しいと思ってもらえるように頑張りたいです。
28	アウトプットをするにはインプットしなければできないと発表していた子がいました。一人ひとりが何かを感じなければ、何も表現は生まれません。一人ひとりの考えは否定するのではなく受け入れることが大切だと思いました。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容（つづき）

29	子どもも今回私たちが意見交換をしたことと同じで、感じ方が多様なはずです。それを踏まえて保育者が支援していくことで、楽しい表現法が多く見つけることができると思いました。
30	色々なハーモニーが心地よく感じるように、幼児期から色々なハーモニーを聴く機会を作る事が必要だと思いました。 子ども一人一人が、違う感覚を持っていることを自覚し、接する事が大切だと思います。
31	子どもの様々な行動の中で、インプットとアウトプットが自然にできるような活動を考えることができるようになりたいと思った。
32	保育の現場で教育要領などを読んで自分の考えだけで子どもに教えるのではなく、違う保育者の意見を聞いてそれを取り入れることができればよりよい保育ができると思った
33	人によって考え方捉え方はさまざまであり、正解ないため子どもの発想を生かした活動をたくさんしていきたいと思いました。そして、こんな考え方、捉え方もあるのだということ子どもたちに知ってもらうため作った作品を発表したり展示したりすることで自分にはない新たな知識を増やして行けるような環境構成、活動内容を考えていきたいと思いました。
34	音楽に触れて表現するまでが音楽の楽しさであり、音楽には聴くことと表現する楽しさがあると学びました。音楽や音を使って活動する時に、子どもが音楽を聞いて感じるだけではなくて、友達同士で感想を伝えあったり音楽を通して体を動かしたりすることも音楽の楽しみなので、そのような活動も取り入れていくようにしたいと思いました。
35	子どもが音に敏感で小さな物音にも反応して眠れない、友達の出す音が気に入らない、外の音が気になって制作に集中できないなど保育の中で様々な問題が起こりうる可能性があると思います。その時にどうして？気にしないで？と思うのではなく、こういう音がするよね！こんな音があるんだね！と共感的な対応をできるようにしたいと思いました。そんな音に？と思うような音に興味を示す子どもがいてもおかしくないと思いました。また、クラスにあるピアノを使って絶妙な音を出して遊んでみるのも面白いと思いました。
36	日常生活の中で学び、感じるができるから、適切な環境を用意したり、細かいことにも気づける力をつけていこうと思いました。自分が気づいたり感じたりした時、そのまま答えを教えるのではなくヒントを与えて、自分の力で気づけた時の楽しさを感じてもらえるようにしたいと思いました。
37	保育をする際に、その活動が受容と表出どちらをメインにやっているのかを考えて行うことができる。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容（つづき）

38	私が保育者になった時に、子どもたちが日常的に様々なことを感じられる環境構成を作り、子どもたちが表現したことを否定せずに受け止め、音楽表現を楽しめるようにしてあげたいです。
39	子どもも保護者も先生方もみんな考え方や感じ方、物事の捉え方が違うということを理解して何事にも取り組んでいきたいと思いました。
40	今回の言葉や音楽の表現に対する感じ方は普段の日常生活でどのような音楽を聴いているのかや、元々生まれ持った感性によって人それぞれの感じ方があるのだという学びを活用して、保育士となった時に子ども達の感じ方が自分とは違ってても決して否定せず、そういう感じ方があるのだなと感じれる大人になれるようになりたいと思いました。
41	感じること（インプット）も、その後表現すること（アウトプット）も大切なことであるため、将来活かすときは子どもたちが自由に表現できるよう、シャカシャカなる玩具を自然においてみたり、共に手遊びを教え手を動かしながら歌などの表現などを大切にしていきたいと思いました。
42	今回の学びを通して、子どもたちに音楽を表現することの楽しさや音楽を聴くことによる感動や考えを伝えていきたいと思います。また1人で演奏したりするのも大切ですが、みんなで演奏することでの違いや感じ方についても考えを深めていきたいと思います。
43	インプットとアウトプットについて授業で学ぶことができたので、子どもと関わりながら子どもはどのような考え方をするのかや、この音が好き嫌いなどの音の違いについてを観察し、子ども自ら音楽・音に、触れてもらえるように環境を考えたいと思います。
44	感じかた考えたかたは人それぞれだから、その意見を尊重しつつ自分の意見も言えて、話し合いをしてより良いものになるようにしていきたい。
45	子どもに対してはもちろん、保育者同士や保護者についても感じ方や考え方を決めつけるのではなく、尊重し柔軟に対応していけるようにしたいと思いました。 また、意見を共有することも大切だと思ったので自分の考えを曲げるのではなく主張することも大切になると考えました。
46	自分の考えだけでなく他の人がどのように感じたのかにも耳を傾け、より良いものを作ろうとする。
47	子どもが楽しんでもらう事も大切だけど何を使ってとかどのような環境でとかがとても大切だと思ったから、保育者になった時にしっかりと教育要領や保育指針をみて活動や遊びを考えたい。
48	この学び(受容と表出について)を基にして、将来保育士となった時には、子どもが初めて物の形や音、感触を体験し、楽しむことのできるような環境を作ることに活用していきたいと思いました。また、子ども同士が自分の考えを周りと共有できるような機会も、その活動の中で沢山作っていききたいなと考えました。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容（つづき）

49	これはインプット、アウトプット、それとも両方なのかを理解するにはまずその事柄をしっかりと理解することが大切だと思いました。子どもが楽しんで音楽を行える環境を作るにはどうしたらいいのかを学ぶことが出来たと思います。
50	文章や音に人それぞれ感じ方があるように、どんなことにも人それぞれ考えが生まれるのだと思う。将来、子どもと関わる際に、子どもがしている行動を見ただけで決めつけしないで、その子がどのように感じているのか、何を思っているのかを聞くなど寄り添えるようにしたい。
51	保育の現場についたときに子どもたちも考え方などが違うと思うからそれを大切にしていきたい。みんなと一緒にないとダメということは無いからその子の個性を大切にすることが大切だと思った。 生活の中で色々なものに触れて気づいたり感じたりするところを大切にしていきたいと思います。
52	表現をする前に必ず受容があると思うので、音楽をはじめさまざまな材料に触れる機会をたくさん作って行きたいなと思います。
53	子供たちは私たちよりもより素直で個性的だと思うので、もっと意見が別れることがあると思います。それをきちんと尊重してあげられる保育者になれるよう、考えの幅を広げていきたいです。
54	もし保育者になったら、子どもたち一人ひとりの考え、気づきに気づいてその子たち一人ひとりの考えが尊重される環境を作りたい。思ったことを堂々と表現できるような、保育環境、先生の対応、子どもたちどうしの関わりが持てるような活動がしたい。
55	生活していく上で音を聞くことは私たちにとって当たり前になっているがそれを当たり前せず保育をしていく側として子どもの興味や関心を閉ざすことなく一緒に音について感じてそれをたのしんでいきたいと思った。
56	子どもが楽しいと感じている時など子どもの学びにつながるような場面を作ったり、そういった場面を大切にしていきたいと思います。
57	子どもが感じた音は私たちにとって当たり前ですが、その発見を見逃さずに子どもの感性を伸ばせるようにしたいと思いました。
58	今回の学びからピアノの良さや歌の良さを子どもに伝えるために間違えを少しでも無くしてすらすらとピアノを弾けるように頑張りたいと思った。
59	受容自体はほとんどの子どもが難なく出来るかもしれないが、表出は一步踏み出せず気持ちの問題で上手くできないことがあると思う。まず子どもが「楽しい」と感じることを工夫して促していきたい。
60	将来、現場に立った際に年長に近づくにつれてインプットとアウトプット両方を取り入れられるようにしたいと思いました。
61	私達がそれぞれ感じ方が違っていったように子ども達も感じ方が様々だと思うので、現場に出た時には一人ひとりの意見を尊重して、意見の食い違いでトラブル等があった際にはこの子はこのように考えていて違う子はこう考えたんだよねとどちらの意見も否定したりせず気持ちを代弁したいと思いました。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容（つづき）

62	保育者になり、ピアノを弾く時にテンポの違う曲を選んでみたり、楽器を演奏できるようにし、様々な音楽に親しめるように環境を構成していけるように努力したいです。また、インプットとアウトプットがバランスよく体験できるような遊びを子どもと一緒に行っていきたくと思いました。
63	保育者が子どもたちの前に立って音楽を教えること、子どもたちが感じたことを自由に表現すること両方を楽しむことを両立できるように教材準備を考えなければならないと思いました。
64	自分の意見だけを安易に押し通すのではなく、一人一人の意見をきちんと聞いてから行動に移したい。
65	人それぞれの考え方があり、捉え方が違うことが分かったので、自分の考えを大切に周りもしっかりと共有し合うことが出来るようにしていきたいと感じました。
66	みんなそれぞれの感性があって、例えば子どもが音を聞いて感じたことを否定せずにそんな事を感じることができるんだなとまた一つ新しいことを子どもから学べるができると思います。
67	人によって音楽の感じ方は違い、正解も不正解もないので、一人一人の考えを大切に保育をしていけたらいいと思います。
68	最後の曲の部分でハーモニーを変えただけで曲の雰囲気ガラッと変わるので、将来現場でピアノを弾く時にその場に応じて少し変えて演奏すると子供たちの反応も変わってくると思うので保育の現場で活用してみたいです。
69	自分が考えてることと他の人が考えてる事は全て一緒ではなく必ず違うところがあるので、話し合い、共有をすることはとても大切だなと感じました。他の人の意見をまじえて考えることでまた違った意見や考えが生まれるので些細なことでも共有を沢山したと思いました。
70	保育の中で音楽をただ取り入れるだけでなく、音楽によって子どもがどのように変化するのか授業で学んだことを通して研究、観察したいと思った。
71	子どもたちは私たちよりももっと繊細な心を持っているから、これ以上意見が割れて当然という意識を持つ。
72	人それぞれ違う価値観の中で答えを一つに絞ることは難しいと感じた。将来は子供や、他の職員、大人と関わる中で意見の違いも出てくるであろう。その中でどのように関わるのが大切なのか、自分の意見だけでなく他の意見も受け入れながらお互いにとっていい答えを出すことを学んだので将来に活かせると思った。
73	自分の意見が合っている事もありますが、話し合いをする中で新たな発見があったり、考え方によってはどちらの意見も合っている可能性もあると今回学んだ為、多くの人や子の気持ちや意見を良く聞き、受け入れたりなどしていきたいなと思いました。よって、同じものや同じ空間に居ても、一人一人感じ方は異なるので強制させてしまったり否定することは避けたいです。
74	普通があまり好きではないので自分だけの音楽の感じ方を体で表現することを得意にしたいです。
75	子どもたちと音楽で関わるために音楽の楽しさを子どもたちに共感したいです。ですが歌うのは苦手だけど聞くのは好きな子もいれば音楽は聞かないけど楽器は好きなど様々な子がいると思います。とにかく初めてやることに興味関心を持ってもらうように子どもたちの歌声にのせてピアノを弾き楽しさを共有していきたいです。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容（つづき）

76	教育要領、保育指針を見た時に3歳以下だとふんわりと〇〇しようとか書かれているけど、3歳以上だとこれするときっちり書かれていたので、重要な事項になってくるのかなと思いました。3歳以上の保育をする時は教育要領や保育指針に書かれていることを行えるような活動を取り入れるようにしたいです。
77	この学びを活かして子どもと音楽を通じて活動する時には一人ひとりどう感じてるのかどう思っているのかしっかりくみ取ることに活用したいなと思いました。
78	日常生活でインプットとアウトプットを意識する時に、自分はこう思ってるけど他の人と感性の違いや物事の感じ方が違うので、様々な人の意見を聞く環境を設けることが大切だと思った。場面に合わせてアウトプットをするべきか使い分けていけたらいいと思った。
79	子どもたちにリズムは同じでもハーモニーを変えるだけで曲の雰囲気が変わり、感じ方も変わる面白さを伝えたい。
80	教育要領や保育指針のインプットとアウトプットを分けた際にもみんなと全然違う考えで、文字を見たり音を聞いたりしても自分では気づけなかったことが沢山あったので、自分の考えや周りの考えを話し合ったりして意見交換を大切にしていきたいと思いました。
81	保育者になって自分が幼稚園生の時に楽しかった音楽の活動を子どもたちに表現したり共有して楽しさや感動をえてもらえたらなと思います。
82	こどもも育ってきた環境や人間関係、聴いてきた音楽によって異なる感じかたをするのだと思いました。この音楽は綺麗だよ、と押し付けるのではなく、こどもの感じたことを口にだして共有することで、音楽を楽しむことができるのだと思いました。
83	ピアノの曲を弾く時に基礎が弾ければいいと思っていたけど、子供に聞かせる時に様々な音を聴かせた方が頭の中にある音も増えると思うので、保育者になった時にたくさん音を弾けるようにしたい
84	子どもたちの反応や様子から色々なことが読み取れる保育者になれるように専門知識を増やせるように学んでいきたいと思いました。そして、将来保育者になったときに子どもたちが色々なもので色々なことを考え感じ、表現できるような環境を作れる保育者になりたいです。
85	音の暗さや速さで体の動きを変えて遊んでみたりできると思いました。
86	人によって感じ方、捉え方は180度違うため、自分の考えや他人の考えを無理やり押し付けることはしないように心がけたいと思いました。 グループワークをしていても、仲間の意見を聞いたら意見が変わったり、話し合ってみたら自分の考えが違ふと感じたり、逆に自分の意見を聞いてもらうなどをすると、「確かにそれもそうかも」となったり、自分も間違っていないけれど、違う視点から見たらそう見えるかも、というふつにどんどん世界が広がると思うので、人それぞれ、色々な考え方、視点があることを留意し、計画を立てたいと思いました。

表1 「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入内容（つづき）

87	できるだけ多く子どもにはインプットしてもらいたいと思った。大人にとっては当たり前の日常生活かもしれないけど、子どもにとっては毎日が成長して人格形成をしていく日々進歩する毎日になるように、身の回りの事でも園に花や虫がいたら季節と関連づけて知識を伝えてあげたり、何気なく語りかけたりすることで子どもはインプットできると思った。それを友達や家族に共有できたのならアウトプットも成功するのでコミュニケーションをまず大切にしていきたい。
88	一人一人の感じ取り方、解釈の仕方を学ぶことが出来たので、自分が音楽を人に紹介、オススメしたりする際にこの人だったこの曲がどう映るか、この人はこのフレーズをどう感じ取るかなど考えていきたいと思いました。
89	音楽の感性において、※〇〇さんが言っていた通り、大人になった今では普段気づかない音がたくさんあり、子どもはその分様々なものに敏感で五感を研ぎ澄ませているのではないかと思いました。電車の音、鳥の鳴く声、子どもたちはいろいろなことを見つけて聞いては指を差してあれなあに？と聞いている姿を見たことがあると思います。そのように子ども達は大人では気づくことの難しい様々な視点で物を見たり聞いたりしているのでその感性？を受け入れ、将来は子どもの感性や感覚を大切にしたいと感じることができました。
90	今回の学びを通してコミュニケーションの大切さを改めて実感したりし、保育者になる身として子どもの気持ちに寄り添い子どもの気持ちも聞きながら、妥協点を見つけていき子どもと一緒に保育者も成長していきたいと思いました。

4. 考察

4-1 記入内容の分類

本研究の目的は、音楽表現領域指導法の授業内で学んだ知識やスキルについて、保育者として保育の現場で、将来、どのように活用するか考えることができる学生を「授業内容を活用している学生」と定義し、「授業内容を活用している学生」の割合を高めるための授業改善にむけた取り組みとして、振り返り課題の活用の有効性を検証することであった。

第1週の授業は、領域「表現」の「ねらい」「内容」「内容の取扱い」における、3歳以上と3歳未満での違いについて、受容（インプット）と表出（アウトプット）の観点から学んでいる。したがって、振り返り課題の記入において、受容(インプット)や表出(アウトプット)の単語の出現する割合は、他の単語の出現する割合と比べ、その傾向は高くなることが推測される。しかし、出現する傾向が多い単語であるからといって、学生がその単語に関連した「授業内容」を意識して、「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」を記入したかどうかについては、本研究では明らかとなっていない。

先述したように「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」の記入が「授業内容」のどの部分にもとづいて考えられたかについては不明であるが、「授業内容」の活用に向ける学生の記入内容は「A. 学びを活用する対象」「B. 対象に対しての行動」「C. 行動によって得られると予想される結果(成果)」、これら3つの視点から書かれていると考えられる。そして、「A.」「B.」「C.」3つの視点それぞれにおける記入の有無により8通りに分類できる(表2、図5)。全て記入した学生は34名(37.8%)、「A.」と「B.」を記入した学生は31名(34.4%)

「A.」と「C.」を記入した学生は1名(1.1%)、「B.」と「C.」を記入した学生は14名(15.6%)、「A.」のみ記入した学生は0名(0.0%)、「B.」のみ記入した学生は9名(10.0%)、「C.」のみ記入した学生は1名(1.1%)、上記以外の学生は0名(0.0%)であった。

表2 3つの視点の記入の有無による分類

記入された視点	人数	割合 (n=90)
全て記入	34	37.8
AとBを記入	31	34.4
AとCを記入	1	1.1
BとCを記入	14	15.6
Aのみ記入	0	0.0
Bのみ記入	9	10.0
Cのみ記入	1	1.1
上記以外	0	0.0

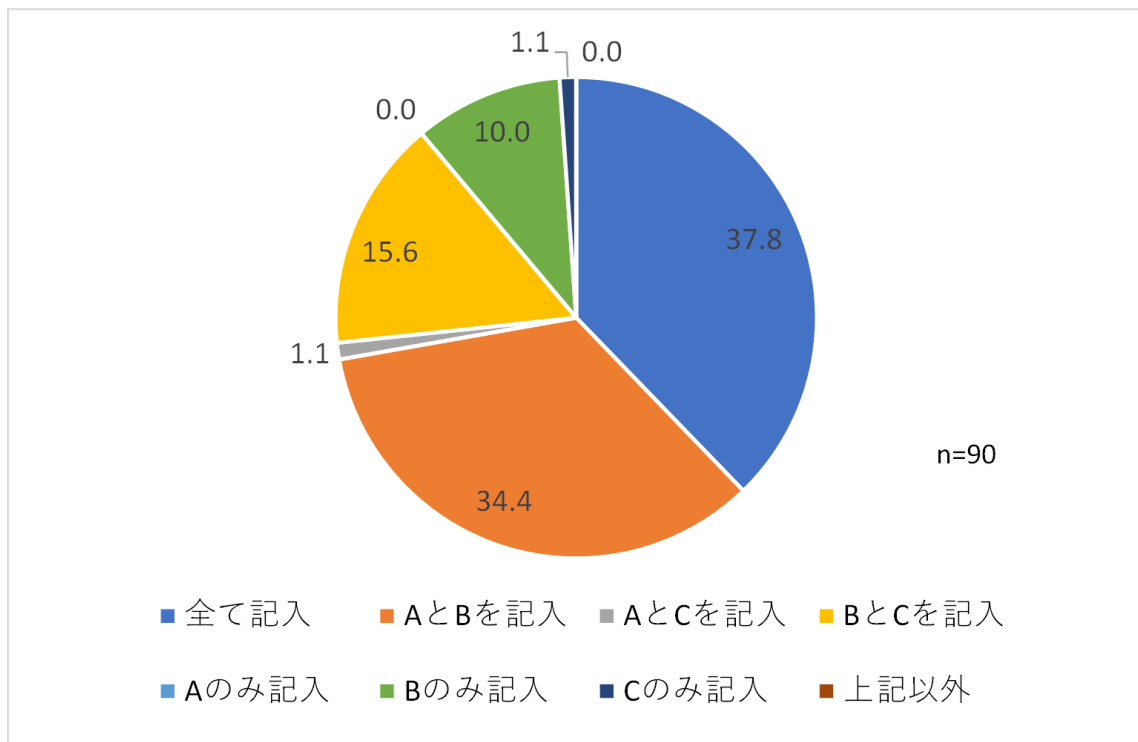


図5 3つの視点の記入の有無による分類

さらに、「B.」と「C.」については、記入されていた場合に、その内容が具体的か、抽象的かの2通りに分類できるため、記入内容に応じて最大で12のグループに分類できると考えられる。

4-2 3つの視点が全て記入されているケース

(1) 「B.」「C.」いずれもが具体的なケース

3つの視点「A.」「B.」「C.」の全てが記入されていて、さらに「B.」「C.」の内容が具体的なケースとして、表1におけるNo.19、No.30、No.33、No.38、No.41、No.48、No.54、No.57、No.58、No.62、No.63、No.68、No.75、No.81～84、No.87、No.89が挙げられる(19名、21.1%、n=90)。一例としてNo.33を表2に示す。「A.」は子どもたち、「B.」は子どもの発想を生かした活動、作品の発表や展示、「C.」は新たな知識を増やすことができる、である。これらの学生は「授業内容」を、保育者として保育の現場で、将来、どのように活用するか記入できていると考えられるため、「授業内容」について活用できている学生である。

表2 3つの視点全てが具体的に書かれている例

33	人によって考え方捉え方はさまざまであり、正解ないため <u>子どもの発想を生かした活動をたくさんしていきたい</u> _B としました。そして、こんな考え方、捉え方もあるのだということを <u>子どもたち</u> _A に知ってもらうため作った <u>作品を発表したり展示したりする</u> _B ことで <u>自分にはない新たな知識を増やして行ける</u> _C ような <u>環境構成、活動内容を考えていきたい</u> _B としました。
----	---

(2) 「B.」「C.」のいずれかが抽象的なケース

3つの視点「A.」「B.」「C.」の全てが記入されているが、「B.」は具体的、「C.」は抽象的なケースとして、No.1、No.10、No.13、No.32、No.34、No.45、No.47、No.49、No.59、No.72、No.90が挙げられる(11名、12.2%、n=90)。3つの視点「A.」「B.」「C.」の全てが記入されているが、「B.」は抽象的、「C.」は具体的なケースとして、No.14、No.29、No.31が挙げられる(3名、3.3%、n=90)。3つの視点「A.」「B.」「C.」の全てが記入されているが、「B.」「C.」ともに抽象的なケースとしてNo.16が挙げられる(1名、1.1%、n=90)。

上記の一例として「B.」は具体的、「C.」は抽象的なケースであるNo.34を表3に示す。No.34での「A.」は子ども、「B.」はそのような(友達同士で感想を伝えあったり音楽を通して体を動かしたりする)活動、である。「C.」は、友達同士で感想を伝えあったり音楽を通して体を動かしたりすることで音楽を楽しめる、と推測される。

これらの学生は、概ね「授業内容」について活用できている学生であるが、抽象的な視点について具体的に記入するための指導を実施する必要があると考えられる。

表3 3つの視点全てが書かれているが「B.」は具体的「C.」は抽象的な例

34	音楽に触れて表現するまでが音楽の楽しさであり、音楽には聴くことと表現する楽しさがあると学びました。音楽や音を使って活動する時に、 <u>子どもが</u> _A 音楽を聞いて感じるだけではなくて、 <u>友達同士で感想を伝えあったり音楽を通して体を動かしたりすることも音楽の楽しみ</u> _(C?) なので、 <u>そのような活動も取り入れていく</u> _B ようにしたいと思いました。
----	--

4-3 2つの視点が記入されているケース

「A.」と「B.」を記入した学生の割合が最も高い傾向（31名、34.4%、n=90）にあり、次いで「B.」と「C.」（14名、15.6%、n=90）、「A.」と「C.」（1名、1.1%、n=90）と続いている。

「A.」と「B.」を記入したケースは、表1におけるNo. 11、No. 15、No. 17、No. 20、No. 20～26、No. 35、No. 39～40、No. 42～43、No. 50～51、No. 55～56、No. 60～61、No. 70～71、No. 73、No. 76～77、No. 85～86、No. 88が挙げられる。「B.」と「C.」を記入したケースは、表1におけるNo. 2～7、No. 9、No. 12、No. 18、No. 36、No. 44、No. 46、No. 52、No. 69が挙げられる。学びを活用する対象者の書かれていない「B.」と「C.」を記入したグループについては、学びを活用する対象者の書かれている「A.」と「B.」を記入しているグループと比較し、記入内容の抽象的な学生の割合が高まる傾向にあると考えられる。学びを活用する対象者を定めることで、対象に対しての行動に関する記入内容も具体的に記入できる学生の割合も高まる傾向になるものと考えられる。「A.」と「B.」を記入しているグループには、行動によって得られると予想される結果について考えることを、「B.」と「C.」を記入したグループについては、学びを活用する対象者を明確にすることを、それぞれ指導することで「授業内容」について活用できる学生になることが期待できる。

一方、「A.」と「C.」を記入したケースとしてNo. 27が挙げられる。対象者の子どもに音楽が楽しいと思ってもらうために、「授業内容」のどの部分をどのように活用しようと考えているか、記入内容から読み取ることは困難である。まずは、対象に対しての行動について考えるように指導することが重要だと考えられる。

4-4 1つの視点のみ記入されているケース

1つの視点のみ記入されているケースとして、「B.」のみNo. 8、No. 28、No. 64～67、No. 74、No. 78、No. 80、「C.」のみNo. 37が挙げられる。これらの学生についても、「A.」と「C.」を記入したケースであるNo. 27と同様に、授業での学びにおけるどの部分をどのように活用しようと考えているか、記入内容から読み取ることは困難である。まずは、学びを活用する対象者について考えるように指導することが重要だと考えられる。

5. おわりに

本研究では、音楽表現領域指導法のための授業改善にむけた取り組みとして、振り返り課題の活用の有効性について検証することであった。

先行研究と同様に、本研究においても「授業内容」について活用できている学生は、履修者全体の30%程度であった。しかし、振り返り課題の記入内容に応じた指導を行うことで、「授業内容」について活用できる学生の割合を高められることから、授業改善にむけた振り返り課題の活用の有効性が示されたと考えられる。

本研究では、振り返り課題の記入内容の分析に、「A. 学びを活用する対象」「B. 対象に対しての行動」「C. 行動によって得られると予想される結果（成果）」これら3つの視点を用いた。振り返り課題記入前に、これらの視点を用いて記入に関する指導を授業内に行うことで、振り返り課題の記入内容は、より多くの視点からより具体的な内容に変化すると考えられる。また、これら3つの視点を全て記入することを求める課題を設定することで、学生は、どの視点を重要と捉えているか、授業内容を活用している学生と活用ができない学生とで、視点ごとの重

要度の違い等についても明らかになることが期待できる。振り返り課題の記入内容の変化や、視点ごとの重要度の違い等からの授業改善にむけた取り組みについても、今後、検討していきたい。

著者の利益相反：開示すべき利益相反はない

引用文献

- (1) 渡邊雄介監修、芳野道子・越智光輝編著、他（2022） 保育内容「音楽表現」声から音楽へ響きあう心と身体、福村出版、東京、p. 131.
- (2) 渡邊雄介監修、芳野道子・越智光輝編著、他（2022） 保育内容「音楽表現」声から音楽へ響きあう心と身体、福村出版、東京、p. 132.

参考文献

- 藤井美津子（2019） 「保育者養成校における表現指導の取り組み－授業の実践と学生の記録の分析から表現の深まりを目指して－」 滋賀文教短期大学紀要 21, pp. 1-18.
- 藤本元啓（2023） 「崇城大学における学修成果の可視化の私案と解決すべき課題」 崇城大学紀要第 48 巻, pp. 1-11.
- 林田和喜・星野由雅・原由喜夫他（2023） 「受講者の振り返りをもとにした授業改善－教職大学院の授業「教職実践協働運営演習」の場合－」 長崎大学教育学部教育実践研究紀要 22, pp. 266-274.
- 堀哲夫（2009） 「学習履歴を中心にした大学の授業改善に関する研究－OPPA を中心にして－」 教育実践研究：山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 14, pp. 64-71.
- 厚生労働省（2017） 保育所保育指針〈平成 29 年告示〉、フレーベル館、東京.
- 舛田弘子・工藤与志文（2023） 「教職課程履修学生における『評価』の適切性判断－目標の『再意味づけ』に着目して－」 札幌学院大学人文学会紀要第 114 号, pp. 47-62.
- 文部科学省（2017） 幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉、フレーベル館、東京.
- 内閣府（2017） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉、フレーベル館、東京.
- 越智光輝（2017） 「保育内容（音楽表現）の授業における課題曲の分析－幼稚園教育実習Ⅱにおける「子どもの歌」のピアノ伴奏に関する調査から－」 国際学院埼玉短期大学研究紀要 39, pp. 127-138.
- 越智光輝（2023） 「音楽表現領域指導法の授業改善にむけた取り組み－振り返り課題における学生の記入内容の分析－」 国際学院埼玉短期大学研究紀要 51, pp. 23-35.
- 清水 誠（2023） 「学習履歴表を活用した授業改善－領域「環境」の学習を事例に－」 国際学院埼玉短期大学研究紀要 49, pp. 1-10.